

## 11<sup>th</sup> AYRCOB 及び GIW/BIOINFO2017 への参加報告書

総合研究大学院大学 生命科学研究科 遺伝学専攻

生命ネットワーク研究室 D2

多田 一風太

海外出張期間：2017年10月30日 - 11月3日

会場：サムジョンホテル, ソウル, 韓国

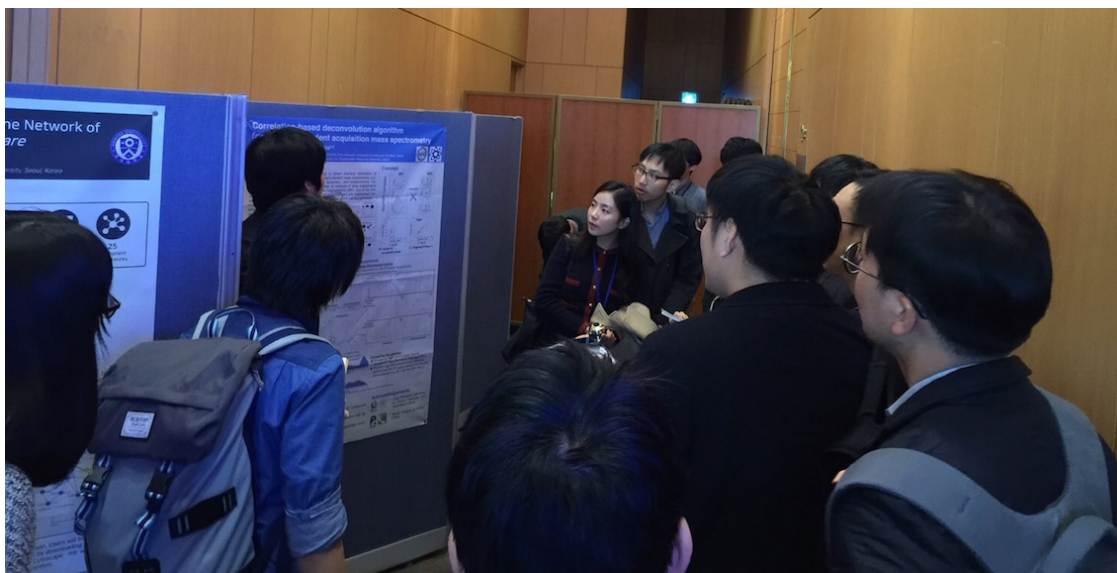
アジアの若手研究者が企画・運営している The 11<sup>th</sup> Asian Young Researchers Conference on Computational and Omics Biology (AYRCOB; 10月31日開催) と、バイオインフォマティクス分野において長い歴史を持つ The 28<sup>th</sup> International Conference on Genome Informatics Workshop (GIW) / BIOINFO 2017 (10月31日-11月3日開催) に参加した。AYRCOB は昨年度から GIW と同時に開催しており、今年度は GIW が Korean Society for Bioinformatics の年次総会 (BIOINFO) と共催していたため、4日間という短い期間に同じ会場で幅広い分野の研究発表を聴講することができた。

私は昨年度から AYRCOB の運営委員を務めており、今年度はキーノートスピーカーの選考や口頭発表演題のレビュアーも務めた。開催前日には、韓国と台湾の若手研究者と顔合わせ、運営に必要な事項の最終確認、補助員などの役割分担を行った (私は1つのセッションのベル係と PC 係を担当)。実際に海外の若手研究者と共に国際会議を運営することで、研究者として今後活動していくための非常に良い経験となった。来年度の AYRCOB では、今年度の経験を生かして日本の運営委員長を務める予定である。

AYRCOB と GIW/BIOINFO の発表は、全てバイオインフォマティクスに関する研究であり、新しい解析アルゴリズムの開発や解析手法の応用方法などのインフォマティクスに特化した研究や、実際に NGS や CRISPR/Cas9 などを利用した実験よりの研究、データもシミュレーション由来、微生物、鳥類、哺乳類由来など、非常に多岐にわたる内容であった。新規ゲノムアライメント手法に関する研究やモデリングを用いた研究など、興味がある分野の発表も多くあり、演者と議論することで非常に良い刺激を得ることができた。

私は AYRCOB でポスター発表を行い、そのポスターは GIW/BIOINFO の4日間掲示された。4日間を通して多くの質問をいただいたが、一番多かったのは説明不足に伴うバックグラウンドに関するものであった。完全に異なる分野の

研究者に説明するためには、より導入部に力を入れる必要があると痛感した。また、いくつか重要な質問や指摘、興味深い提案を頂いたため、今後の研究に役立てていきたい。



AYRCOB でのポスターライトニングトークの様子。ポスター発表の参加者 24 人が、1 人 2 分の発表を各自のポスター前で行った。



会場のサムジョンホテル。ソウル市江南（ガンナム）駅の少し北側に位置し、金浦空港から電車で 40 分程度の距離にあり、非常に良い立地であった。



ソウル市を東西に貫く大河である漢江(ハンガン)。漢江の北側が江北、南側が江南というわかりやすい地名である。会場からバスで数分の距離にあり、空いた時間に訪れた。非常に雄大な漢江公園が川沿いに 12 か所点在する。